令和6年度自己点検・評価報告書

令和7年4月1日

名古屋国際学院

1. 検査概要

本点検・評価は日本語教育機関の告示基準第1条第1項第18項および第2条第1項第1項に基づき、令和6年度における本校の基準適合性や運営状況を点検、評価するものである。

2. 対象期間

令和6年4月1日～令和7年3月31日

3. 評価委員

佐藤洋一（校長）、林佑亮（マネージャー）、志村朋美（教務主任）、水谷太一（学生課長）

4. 点検事項

- (1) 理念・教育目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動の計画
- (4) 教育活動の実施
- (5) 成績判定と授業評価
- (6) 教育活動を担う教職員
- (7) 教育成果
- (8) 学生支援
- (9) 進路に関する支援
- (10) 入国・在留に関する指導及び支援
- (11) 教育環境
- (12) 入学者の募集と選考
- (13) 財務
- (14) 法令遵守
- (15) 地域貢献・社会貢献

5. 点検方法

大項目ごとに点検担当者を決め、1次評価を行った。その後、評価委員会において、1次評価が妥当であるか、根拠資料に基づき協議を行った上、最終評価を決定した。

6. 点検結果

詳細は、別途「自己点検・評価票」にまとめる。

7. 総評

告示基準との適合性について、今年度も問題は見られなかった。引き続き、定期的な点検を実施しつつ告示基準に則った学校運営を行っていく。

告示基準に定めのない事項の中で課題として挙げられたものについて、以下に概要と今後の改善計画を示す。

【公開講座の実施について】

近隣のNPOと協力し、留学生が子ども食堂の活動に参加するなど、地域に根差した活動を行っている。一方、日本語教育機関の施設を活用した社会貢献・地域貢献は十分に行うことができていない。今後、生活者としての日本語学習者や就学児童向けの公開講座の開講など、地域貢献につながる活動の実施を検討する。

【進路サポートの強化】

昨年度実施したNPS調査において、全体的に学生の満足度は非常に高い結果が得られたが、その中でも「進路サポート(大学進学)」に関する項目のスコアが他の項目と比較してやや低かった。日本留学試験(EJU)など、大学進学に必要な各種資格試験への対応力が求められる中、在校生の大学進学を支援する体制のさらなる充実を図る。対策講座を開講している外部塾と提携し、科目対策や小論文指導等により専門的な支援の強化を目指す。提携先の学習塾と学習成果を共有・把握しながら効果的な指導を行っていく。また、学生一人ひとりの学習目標に応じた個別支援の仕組みづくりも進め、教職員が連携して総合的な学習支援を強化していく。